

第61回放送フォーラム・アンケートまとめ報告

11月30日(土)午後2時から、東京・渋谷の勤労福祉会館で開かれた第61回放送フォーラム、「NHKかんぽ不正報道問題を検証する」には「放送を語る会」の会員を中心に、45人の皆さんが参加、砂川浩慶立教大教授(メディア総研所長)、永田浩三武蔵大教授(元NHKプロデューサー)が、放送を語る会運営委員の戸崎賢二氏(元NHKディレクター)の司会のもと、カンポ不正販売を告発したNHK番組が、郵政グループの抗議を受け、NHK経営委員会がNHK会長に「厳重注意」し、番組の続編の放送が一年以上も遅れた問題を検証しました。以下は、フォーラム終了後、寄せられたアンケートの回答(10票)についての報告です。

このフォーラムを何で知ったかという設問への回答では、10票中8票が「語る会」やその協賛団体からの連絡で、というものでした。友人知人からの紹介及びインターネットなど各種情報で知ったというのが、それぞれ1票でした。

フォーラムの内容についての感想、ご意見は以下のとおりです。

○ 「桜を見る会」ウオッチに忙しく、この問題を復習するのに時間が掛かった。(といっても、未だによくわかってはいないな)

永田さんがおっしゃっていたように、(ETVの時もそうだが)NHKのトップが、政治的な口出しに対して、現場を信頼して、きっぱりNO!と言えていたら、いまの不自由さが、これ程になってはいなかったのではないかと悲しい。(R. N)

○ 砂川先生ご指摘の「伝えない公共放送」が問題なのであり、このシステム全体を改めるかが、最も緊急な課題だ」は、研究者らしい良心的な指摘だと思う。

永田さんの話は、放送現場の体験者らしく、現在の問題を洞察・解明しようとするもだった。質疑応答では、①かんぽ問題へのマスコミ各社の対応の話が興味深かった。②永田さんの話では、「放送の時期を遅らせたのは、社会に対する罪であり、それは深い」という点に納得した。NHKの監督官庁に弱く、すぐ屈服しがちだという点も問題だと思った。(T. H)

○ 元NHKのOBでもない私のような者には、NHK内部の様子など想像を越えることですが、戸崎さん、永田さんのお話から、おぼろげながらも、このような問題が起こった構造が、理解できたような気持ちです。来てよかった。今回のことで、現場には非はない、現場の人たちは、基本的には、がんばっている人たちであることがわかり、嬉しかったです。そういう視聴者としての意見や、励ましを伝えたいと思いました。(K. T)

○ 砂川氏と永田氏のお話は、今日のメモとして収録したテープを家に帰って起こしてきちんとまとめたい。私は、「伝えない公共放送」について、今日のお話から、視聴者を馬鹿にするな、と怒っています。

私の、教育テレビでよく見る番組は、庶民の日常の暮らしをカメラがじっと見詰めてドキュメントする「75時間」です。(R. S)

○ ①放送フォーラムは、友人からの紹介で、今回、初めて参加しました。全体の構成や内容が充実しているのでびっくりしました。②このような集会在、長く続いていると聞いて知らないで勿体ないことをしたと思いました。③話題が知らないことばかりで、今日聞いた情報で頭が溢れんばかりになりました。④参会者の、ひとつひとつの疑問に丁寧に答える姿勢も好感が持てました。今後の企画として天皇制をテーマにしたものが欲しい。国谷さんなど、も呼んで話をききたい。(Y. T)

○ 大変よかった。関連の資料も充実していて、発言も公明正大であった。私見では、任命する方も、される方も、ジャーナリズムおよびジャーナリストとはいかなるものであるべきか、という知識が皆無の人たちがばかりに思えてならない。見識のある人が少なくなったという他ない。その任務にはこれこれが前提でなければ、その資格がない、ということを実に勉強し、それがわからないなら、その職に就くべきではない。

かんぽ問題について報道しなかったことによる、視聴者(NHK受信料加入者)への責任をどう考えるべきか、については議論が深まらず、あまりよくわからなかった。

(M. K)

○ 今回のカンポ問題にしる、「桜を見る会」の問題にしる、マスコミの調査報道が、もっと預かって力あるべきだ。それが弱ければ、闇に葬られかねない。メディアの本質は権力の監視、特に、受信料に支えられているNHKこそ、権力の闇を突いてほしい。(O. Y)

○ よい集会だったです。NHKの内部体質、職員の現実体質などもっと掘り下げられたらいいのかな、と思います。(A. T)

○ パネラーの話には、放送業界語が出たり、あちこち飛んだりしてわかりにくい部分があったが、討論は、会場からの、いろんな方々の発言も聞いて参考になった。(無記名)

○ 砂川講師の話から、最近の若い学生たちが、スマホ中心で、紙情報から遠ざかっている現況に驚いた。永田さんの話は、NHK側をいろいろ取材した話で、納得できる内容だった。特に、大型番組開発センターで、制作番組担当と、報道番組担当のスタッフが協力し合って、垂れ込み情報でも、裏をとって番組にしてゆく過程がわかり迫力があつた。(Y. M)

以上